

も、支持層の学歴分断現象がハッキリ出るところがあります。たぶん、学研さんなどが作る学習教材も、親が大卒層の子ども向けなのか、非大卒層の親の子ども向けなのかという狙いをしっかり考えたほうが、ニーズに合ったものを開発できるはずですよ。でも、お客さんに「最終学歴は何ですか？」と直接確かめるのは躊躇しますけれどね。

日本社会では最終学歴を尋ねるのはタブーになってしまっています。でも、社会を見る整理箱として「大卒層」と「非大卒層」という2つの入れ物を用意しておくこと、理解を早めたり深めたりするのに、とても役立つんです。

——教育熱心な国だと言われる日本で、なぜ学歴がタブー視されているのでしょうか？

吉川 グレーゾンだからです。同僚の人類学者に教えてもらったのですが、タブーは白黒はっきりつかない部分で生じるのだそうです。近代化されていない未開地で暮らす部族たちは、集落と集落の間にある土地をタブー視するそうです。互いに立ち入らないゾーンにして、心理的な衝突を避けてい

るんですね。このタブーは、近代社会でも当てはまると思います。人々の考え方についても、良いのか悪いのかハッキリしないグレーゾンはタブーにして互いに触れない。日本でもタブーの多くは境界線が曖昧な物事ですよ。学歴はその一例なんです。日本人の多くは学校を卒業して、さらに進学して学び続けることを良しとします。でも、その高学歴が、所得や生活などで格差を生み出す発生源になることも、みんな知っています。

学歴って社会的に良いものなのか悪いものなのかハッキリ言い切ることが難しいものなんです。だから、タブー視されるようになってたんですね。

**学歴バランスの崩壊が格差問題を生じさせた**

——学歴で分断された社会は、改革すべきものなのでしょうか？

吉川 よく、労働賃金の格差や職業選択の制限は少ないほうがいい、とテレビや新聞などで耳にします。でも、その勢いで「学歴の差もないほうがいい」となったら日本社



会的には中流だ」という階層についての意識がそうです。外国なら、「白人だ」「黒人だ」「ホワイトカラーだ」「労働者だ」というようなアイデンティティが重視されますね。つまり、自分は何者なのかということに基づいて社会生活をするときに立ち表れるような意識が社会意識なんです。

実は、社会の中で見られる特徴的な文化や消費行動は、こんな社会意識から生まれているんですよ。アメリカでは白人が好きな音楽と黒人が好きな音楽は違って、それぞれ独自の文化と現象を生み出していますよ。

逆に言うと、社会意識を探れば、人々はどんな社会的なパーソナリティを持っているかが見えてくるし、その人たちによって構成されている社会がどんな世の中なのかも分かるようになるんです。

たいていは、共通の社会意識でまとまる複数の集団があって、それぞれ役割を果たしながら世の中を支えています。もちろん、日本にもありますよ。例えば、目の前の日本人に1回だけ質問できるチャンスがあって、どんな社会意識を持っているか知りたいと

会には混乱しますよ。仮に20歳まで義務教育にして学歴差をなくしても、職業の振り分けをする大掛かりなシステムが必要になります。日本では、ほとんどの人が12年の長い教育を経て「大卒」あるいは「非大卒」という2種類の学歴カードを選択します。日本は、この学歴カードに基づいて社会に必要な労働力の割り振りをする国なんです。

例えば、医師や弁護士、キャリア官僚は大卒者から選ばれます。美容院には専門学校卒者がたくさんいます。地方銀行では、大卒と高卒が住み分けるように働いてい

ます。多くの仕事の現場では、大卒層と非大卒層が分かれていて、職業の違いは所得の違いにつながるもので結果的に学歴は所得の差も生じさせています。

しかし、この学歴による格差システムには、文句がほとんど出ません。それは、正規の公的な格差生産装置だと認識され、それなりに機能してきたからです。

僕はよく「学歴分断社会はどうすればなくなるんですか？」と問われるんですが、この日本の学歴社会システムは、日本社会が100年以上もかけて作り上げたものなんです。今の日本社会が良い社

# 視点

## 大卒と非大卒で二分する日本格差の正体は「学差」にある

●インタビュー 吉川 徹 大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授



きっかわ・とおる ●1966年生まれ。博士（人間科学）。専門：計量社会学。島根県立松江南高等学校出身。大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了。著書：『学歴分断社会』（ちくま新書）、『学歴と格差・不平等』（東京大学出版会）など多数。

大阪大学の吉川徹准教授は、今の格差社会の主成分は学歴だと主張する。そして、日本の社会は大卒層と非大卒層で分断された「学歴分断社会」になっているとも指摘している。現在、50歳以下の4割が大卒層（短大卒含む・専門学校卒含まず）で、近い将来には5割まで達する。吉川准教授は、日本社会はこの学歴の差で構成され、その「学差」こそ格差の正体に他ならないと強調する。

「日本の若者たちは、高校を出るときに『大卒』あるいは『非大卒』という人生の切符を渡されませんが、その切符で人生のチャンスやリスクや希望が大きく左右されるんです。この仕組みを高校の先生たちにもっと知って欲しい」と、訴える吉川准教授に、学歴分断社会での進路指導のあり方を尋ねた。

**タブーな学歴が日本人の意識を左右する**

——日本の社会が学歴分断社会になっている、と考えたキッカケは何だったのですか？

吉川 僕は社会学の中でも社会意識を研究してらんです。社会意識というのは、例えば「自分は社

き、こう尋ねればいいんです。「あなたの最終学歴は？」と。今までたくさんアンケート調査を解析してきましたが、日本人の社会意識は学歴に帰することが多いんです。さまざまな社会現象を考察するときも、「大学層」の動きから始まったものなのか、あるいは「非大卒層」から出たものなのかと考えていくと、うまく整理できることが多いんです。性別や世代の違いによる意識の差や、都市と地方の住民意識の差もあるのですが、一番顕著に出るのが学歴による意識の差なんです。きくと、日本社会の水面下で、この大卒層と非大卒層の分断がいたるところにある。さまざまな調査の解析をしてきて、そのことに気づいたんです。

——どんな場面で大卒層と非大卒層の分断を実感できるのでしょうか？

吉川 例えば、消費行動がそうです。マーケティングは専門外なのでデータを細かく持っていないませんが、好きなテレビ番組、タレント、CM、音楽、飲食店、外国車メーカーなど、これらの消費者の学歴を調べれば大卒層と非大卒層の分断線が見えてきます。政党の中に

き、こう尋ねればいいんです。「あなたの最終学歴は？」と。今までたくさんアンケート調査を解析してきましたが、日本人の社会意識は学歴に帰することが多いんです。さまざまな社会現象を考察するときも、「大学層」の動きから始まったものなのか、あるいは「非大卒層」から出たものなのかと考えていくと、うまく整理できることが多いんです。性別や世代の違いによる意識の差や、都市と地方の住民意識の差もあるのですが、一番顕著に出るのが学歴による意識の差なんです。きくと、日本社会の水面下で、この大卒層と非大卒層の分断がいたるところにある。さまざまな調査の解析をしてきて、そのことに気づいたんです。

——どんな場面で大卒層と非大卒層の分断を実感できるのでしょうか？

吉川 例えば、消費行動がそうです。マーケティングは専門外なのでデータを細かく持っていないませんが、好きなテレビ番組、タレント、CM、音楽、飲食店、外国車メーカーなど、これらの消費者の学歴を調べれば大卒層と非大卒層の分断線が見えてきます。政党の中に

会だとは言いませんが、日本に  
限る限り「学差」からは逃れられ  
ない構造になっているんです。

今の格差問題について真剣に考  
えるなら、まず日本社会特有の学  
歴を中心として廻っていく社会の  
仕組みを正しく理解することです。  
そうしないと空論になります。

政治家が「所得の低い人が虐げ  
られている」と訴えています。が、  
そう言うだけでは、だれがどうし  
て低所得になるのかという仕組み  
に触れていないわけで、本質的な  
問題解決につながらないでしょう。

### 今の日本社会のどこに問題があ るのでしょうか？

吉川 非大卒層、中でも高卒層が  
得られるはずのチャンスが大卒層  
に奪われている点です。日本社会  
の一翼を担っている高卒層が、仕  
事や所得を得るのに不利になり過  
ぎていることが、問題なんです。

かつて、学歴による職業的な  
差や所得の差はありました。でも、  
昭和の時代までは高卒と大卒の学  
歴メリットは五分五分だったと思  
うんです。高卒でも大卒でも多く  
が企業の正社員として働けたし、  
終身雇用と年功序列で安定した暮  
らしも実現できました。それに、

高卒なら大卒よりも早く職に就け  
て経験とスキルと金を貯められた。  
早く結婚もできたし家族も作れた。  
マイホームだって持てた。

しかし、時代は変わりました。  
雇用が流動化したんです。一生  
のうちに履歴書を何度も書くよう  
になり、一生のうちに何度も学歴  
カードを切る社会に変わった。

その分だけ高卒層と大卒層が同  
じ土俵で職を奪い合う場面が多く  
なり、そうすると企業は大卒を選  
びやすく、高卒があぶれやすくな  
る。さらに不況が進めば、就職戦  
線であれた大卒層が高卒層の領域  
だった仕事にも流れ込む。ますま  
す高卒が不利になる。

基本給も生涯賃金も社会的な評  
価も、何を比べても高卒層のほう  
が低くなっている今、大卒層と非  
大卒層で作り上げていた良好な社  
会バランスが失われつつあるん  
です。この問題を解決したいなら、  
非大卒層が割りを食わないよう  
な策を積極的に打つことです。

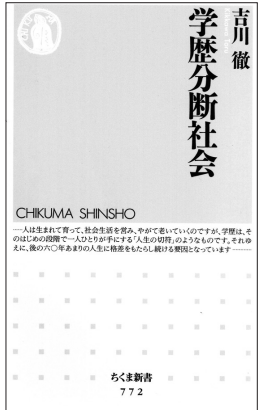
学歴をタブー視するのはやめて、  
大卒層と非大卒層とを区分けして、  
非大卒層ばかりが不利にならない  
ようにする。企業が採用活動をす  
るときは、大卒層と非大卒層の従

卒層も約7割です。残りの3割は、  
親とは違う学歴になります。した  
がって、親子の学歴関係を整理す  
ると4タイプになります。

1つ目は「大卒再生産親子」。  
全体に占める割合は理論値で大学  
進学率（短大含む）約50%×再生  
産率70%で約35%。実際は4割前  
後ぐらいです。

2つ目は「非大卒（専門学校卒  
含む）再生産親子」で、これも約  
35%です。3つ目は、非大卒保護  
者の子どもが大学に進学する「学  
歴上昇親子」で、50%×30%で約  
15%です。4つ目は大卒の親の子  
どもが非大卒になる「学歴下降親  
子」で、これも約15%ぐらいです。

高校の先生方が考えてみられる  
べきことは、この4タイプで分類  
した場合、自分たちの学校の生徒  
がどんな比率になっているのだろ  
うかということ。例えば、卒



『学歴分断社会』（ちくま新書）  
日本の格差は、学歴によって明らか  
にされている。大卒層と非大卒層の分断線  
はどう生まれたのかを冷静に分析。

業生の大学進学率が100%に近  
い進学校なら、大卒再生産親子予  
備軍と学歴上昇親子予備軍で分け  
られるはず。この2グループは似てい  
るよう  
で違わんです。例えば、大卒再生  
産親子の子どもは「大学を志望す  
るのは親の意向だし、今の生活レ  
ベルより下げたくないから」とい  
う理由で、放っておいても大学を  
目指すことが多いのですが、高卒  
の親を持つ子どもは「勉強が好き  
だし、親も頑張っていて言ってく  
れているから、できるだけ上の大学  
に行きたい」と上昇志向をバネに  
して頑張っていることが多いはず  
です。そして、この2つのタイプ  
の混成比率は高校ごとに違ってい  
るはず。それこそが、学校の  
もっとも重要な特徴なんです。

きめ細かい進路指導をするのな  
ら、この違いを念頭に置いたほう  
がいいと思います。

### 高校生たちに、日本が学歴分 断社会であることを伝えたほうが いいのでしょうか？

吉川 それは、そう思います。こ  
の国では、学歴が社会的な格差を  
生み出す正規の装置であって、一  
度学歴を確定させると逆転や修正



業員比率に準じて、非大卒層の枠  
を決めさせる。

奨学金などの教育費支援も、不  
安定化しやすい非大卒層保護者の  
子どもを選び出して割り当てると  
いうにする。全員に均一なチャン  
スで奨学金を配布すると、「得をし  
た」と一番思うのは、もともと子  
どもを大学に進学させる希望が強  
い大卒再生産親子なんです。こ  
れでは余計に格差が広がる方向に  
働きかねないんです。

日本における大卒層と非大卒層  
というのは、アメリカでの白人と

が難しい。そのことを高校生にし  
かり理解させて、それから卒業さ  
せることはとても重要です。

学歴分断社会と言うと、すぐに  
高卒が低い学歴とか大卒が高い学  
歴と考える人が多いのですが、こ  
れは間違いです。例えば、高卒や  
専門学校卒を「軽学歴」、大卒を  
「重学歴」と考えればいいんです。

デジタルカメラだって、コンパ  
クトタイプが重宝する一方で、本  
格的なカメラが必要なきもあ  
る。有用さというのはケースバイケ  
ースで、学歴も同じ。カリスマ美容  
師などスーパー職人を目指すなら、  
軽学歴で早く実社会に出てキャリ  
アを積んだほうが得です。

高校生に、軽学歴を選んだ場合  
と重学歴を選んだ場合のシミュレ  
ーションをさせてみたらいいと思  
います。まず、日本社会のルールと  
して、高卒後に軽い学歴の道と重  
い学歴の道があって、半分の人が  
いずれかに進むと教える。職業に  
よって、軽学歴でキャリアを早く  
積んだほうがいいのかと、重学歴  
でないかという場合があるとも  
伝える。

そこで考えさせるんです。例え  
ば、なりた職業がはっきりして

黒人といったエスニシティと一緒  
だと思っただけでいいと僕は思う  
んです。それは決して上下の関  
係ではなく、もっと水平的な関係  
だと捉えればいいんです。

### 低学歴・高学歴ではなく 軽学歴・重学歴と考える

高校が大学進学率を高めたい場  
合、大卒層の子どもばかりを集め  
ば効果的なのでしょうか？

吉川 そう単純ではありませんね。  
数字を見ると、学歴が親子間で再  
生産される割合は、大卒層も非大

いて重学歴が不要なら、就職する  
か就職に強い専門学校などに行く。  
重学歴が必要なら大学に進む。就  
きたい職で迷っているなら、専門  
学校に行ってしまうと方向転換を  
しづらくなるので、ちょっと頑張  
って多くの可能性が開けるような大  
学に行くようにする。

### どうすれば、生徒にとってベ ストの進路を早く見つけられますか？

吉川 その問いに、単純な答えは  
ありません。雇用が流動化し経済  
情勢が不安定になった今、正解の道  
は誰にも分からないんです。でも、  
社会の流れや仕組みのメカニズム  
を理解し近未来を予測して対応を  
考えることは可能です。

単純に高卒と大卒ではどちらが  
有利かという話ではなく、自分に  
はどんな学歴カードがあって、そ  
のカードをどう切れば、もっとも  
自分の強みを発揮できるか、逆に、  
今の社会の流れの中では、どうい  
う人生設計をすると学歴のメリッ  
トを生かせなくなってしまうのか  
ということ、一人ひとりに考え  
させることが大事なんです。

それが今の社会を生きる高校生  
たちにとって、本当の生きる力に  
なるんだと思います。